

鳥取市学校給食センター整備基本計画（素案）

市民政策コメントの結果（概要）

令和4年 12月 1日

学校保健給食課

鳥取市学校給食センター整備基本計画について、各分野の有識者等から意見を伺いながら策定を進めてきたところですが、策定にあたり広く市民の皆様からの意見を参考とするため、市民政策コメントを実施しましたので、下記のとおり結果を報告します。

記

市民政策コメントの結果

(1) 意見募集期間 令和4年10月3日（月）～同月24日（月）まで

(2) 意見応募者：16名
意見総数：31件

(3) 主な意見

内容	意見数	意見要旨
配置計画について	9	新たな学校給食センターの配置数について など
地産地消・食育について	2	見学機能について、地元食材を使った食育について など
アレルギー対応について	3	アレルギー対応食専用設備について など
事業手法について	9	新たな学校給食センターの整備における事業手法、発注方法について など
その他	8	将来像について、災害対応について、炊飯機能について など

(4) 意見に対する市の考え方について
・別紙参照

鳥取市学校給食センター整備基本計画（素案）に係る市民政策コメントに寄せられた意見及び意見に対する市の考え方

■意見募集期間：令和4年10月3日（月）～24日（月）

■意見応募者：16名

■意見総数：31件

お寄せいただきましたご意見に対する考え方は次のとおりです。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
1	新たな学校給食センターの配置計画について	今後の人口、学校の統廃合など様々な要因があり、その時に合わせた適切なものである必要があると思うが、最終的なセンター配置数は2か所が適当ではないか。	本基本計画は、新たに整備すべき学校給食センターの配置を定めるとともに、基本理念や規模（提供食数）、整備水準等の条件、また建設地の条件等の施設整備に係る基礎的な論点整理を加え、今後の学校給食センター更新の基礎となる方向性を示したものであり、新たな学校給食センターの配置については「2か所案」と「3か所案」のいずれかが適当と考えており、現時点の検討結果のみでどちらかに決定するのではなく、引き続き、児童生徒数の推移を注視し、学校、保護者や議会などの意見を十分に聞いて、鳥取市学校給食センター整備検討委員会で検討してまいります。
2		センター数については3か所以上 2箇所だと、2時間以内の喫食、天候による高速道路の通行止めなどの場合、無理があると思う。高速道路を使わない前提で、運搬時間を考えるべきだと思います。	
3		給食センター規模や設備から考えると3か所が妥当。北部エリア、南部エリア、西部エリアと分ける方がよい。もちろん第一、湖東をまず優先的に考え、その後、入れ替えを可能にしながら建設していくとよいのではないかと思う。 建設地のことも考慮する必要がある。給食ができてから喫食までの2時間遵守ということを考えれば、30分程度の距離の範囲ということになり、3か所が適当ではないか。	
4		一箇所目を約7000食とするのであれば、最終的に2か所が望ましいと思う。 いずれにせよ1か所所目の北部に建設する給食センターの場所は、2か所案、3か所案のどちらでも対応できる場所を選定する必要があると思います。	
5		北部エリアの建設後のセンター配置計画は財政負担や施設規模の面では2か所案が妥当に感じられるが、2時間以内提供や配送時間の問題がありイメージどおりに北部センターが福部から青谷までカバーできるか不安である。財政的な負担が大きくなるかもしれないが、安全性については3か所以上の案が優れていると思われるので今後十分検討して安全な学校給食の提供をお願いしたい。	

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
6		<p>北部・西部・南部の3か所案が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の炊き出しが容易である。 ・災害時のバックアップ体制 災害時2か所が1か所となるより、3ヶ所が2か所となる方がより安全である。 ・提供食数に変動があった場合に、対応がしやすい。 	
7		<p>施設の老朽化と少子化に伴う生徒数の減少で2～4か所にすることは妥当だと思います。災害時の対応や緊急時の対応などバランスを考えると3か所案が最適だと思います。</p>	
8		<p>各給食センターとも老朽化が進んでおり、早急に整備していく必要があると思います。また、生徒数が減少していることから、8つある給食センターを統合して整備していくことは当然のことだと思います。</p> <p>ただ、衛生的で温かい学校給食を提供するために2時間以内の配送ができることや、災害時の地域への対応、非常時での対応などのリスクを考えると2か所ではリスクが高く、最低3か所は必要だと思う。</p>	
9		<p>鳥取市の学校給食センターは老朽化が進んでおり、整備が急がれます。</p> <p>特に老朽化が著しい第一学校給食センターと湖東学校給食センターに提供する北部エリアの給食センターの整備を最優先に進めていくことは大賛成です。「安全安心」で「地産地消」の給食センターが整備されることを切に望んでいます。</p>	

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
10	地産地消・食育について	地元食材の調理方法や、地域の自然・食文化を改めて認識できる交流の場としての施設づくりに期待します。また、生産者の苦労についても学習でき、子どもたちが地元へ愛着を持てる取組みをお願いします。	食育等の推進につきましては、今後も、生産者、学校、鳥取市教育委員会が連携し取り組みを進めてまいります。 また、新しい学校給食センターには見学機能等を検討しており、更なる食育の推進が可能となると考えています。
11		幅広い施設見学者を想定した、地域に開かれた施設となることを期待します。	
12	アレルギー対応について	3-3-4 食物アレルギー対応食の提供では、調理中の汚染対策を講じたアレルギー対応専用調理室を計画し、安全なアレルギー対応食提供を行うとなっている。鳥取市は、アレルギー対策として除去食や代替食を実施しているので、当然の設備と考える。アレルギー対応食への児童・生徒は年々増加気味である。保護者への期待感も高まると考える。	アレルギー対応につきましては、国の『学校給食における食物アレルギー対応指針』及び『鳥取市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル』等に基づいた対応を行っており、今後も、学校、学校給食センター、鳥取市教育委員会が連携し、いただいたご意見も併せて参考としながら、引き続き、鳥取市学校給食食物アレルギー対応検討委員会による検討結果を遵守し、第一期整備計画（仮称）を策定したいと考えています。
13		アレルギー対応設備を有す給食センターの整備は必要な取り組みだと思えます。対応品目はどのくらいを想定しているか示さないと設備状況や対応方法、人員数がかなり変わってくると思うので、方向性を示してほしいと思う。	
14		現在の学校給食センターはアレルギー対応が不十分ですが、新センターではアレルギー対応の調理を専用の部屋で行えるとのこと、衛生管理上も安心できます。アレルギーを持つ子どもが一般の給食を食べる子どもと同じように食事ができるということは、アレルギーを持つ子どもの父兄としても心強いと思う。	

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
15	事業手法について	<ul style="list-style-type: none"> ・発注方式は従来方式とする。 ・設計と建設工事は分離とする。 ・設計・監理業者は市内業者で、給食センター及び食品工場実績のある業者とする。 ・DB方式では、設計業者数と施工業者数の違いで応募出来ない企業があり、公平性に欠ける。 ・工事は建築・電気設備・機械設備・厨房設備に分けての分離発注とする。 ・運営面も市内業者とし、地域の能力と雇用を活かす事業とする。 	<p>いただきましたご意見を参考に、様々な事業手法について引き続き検討し、「民間活力導入可能性調査」を行った上で今後の取組みに反映してまいります。</p> <p>また、事業手法等については、事業費の多寡だけで判断するのではなく、「鳥取市の学校給食の基本構想」に則り、安全・安心な学校給食の持続可能な提供を実現しながら、より効果的・効率的なものとなるよう、引き続き検討を進めてまいります。</p>
16		<p>運営方法については、直営(DB方式)</p> <p>理由として、安心、安全な給食を提供するには、市がしっかりと管理、関わると書かれていることから偽装請負にならないこと。この2点を重視すれば、直営、もしくはいかに直営に限りなく近い団体に運営を任せるかだと思います。</p>	
17		<p>コストを低く抑える事も、もちろん大事だとは思いますが、給食という公共の福祉とも言える重要な内容は、市が責任を持って施工から管理まで携わり、運営できる手法を選定すべき。</p>	
18		<p>学校給食事業においては運営業務（調理事業）が占める重要性が大きいと思うので、ノウハウのある地元事業者がいれば委託事業者を選定し、鳥取市と一元化した運営プランを設計・建設に反映させる手法をとった方が、将来にわたり安定した学校給食運営が行われ、センターの配置計画ビジョンも整うのではないかと思います。</p> <p>学校給食は教育の一環として位置付けられるべきなので、コスト削減や合理化の影響を受けることなく今後も鳥取市の実施責任のもとで運営されることを切に願います。</p>	
19		<p>従来方式やDB方式では、市が実施責任を負う形になるので給食提供を受ける保護者としては安心できる。財政負担が大きくなる等の理由でPFI方式を採用したとしても、市のビジョンや指導が行き届く運営を行って欲しい。</p>	
20		<p>どのような事業方式を選択したとしても、設計、建設等あらゆる分野の業務に地元企業が参画しやすい事業手法を選定してほしい。大変大きな事業となるので、全ての業務で地元業者を優先的に活用することで、地元業者の成長機会に繋げ、雇用が安定し、経済が好循環する計画にしてほしい。</p>	

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
21		<p>地元企業の積極的な参加を優先した事業手法の採用（従来型）が望ましいと思います。</p> <p>コスト削減を迫るあまり、行政側が設定した予定価格に見合わず、参加を断念される事業者も多いと思われます。そのため、適正価格での「分離発注」方式が望ましいと思います。</p> <p>給食センターの整備は緊急性があり基本計画には大賛成ですが、事業手法（運営方式等）の比較・検討は鳥取独自の地域性等を考慮して検討する必要があると思う。</p> <p>P F I方式の場合はどうしても県外の大手企業者が、建設・運営面でリードしていくことになるので、地元企業が事業をコントロールできなくなる懸念があります。また、給食センターの実績がない地元企業に対しても少ない情報で積算を行う必要があり、リスクを強いることになります。</p> <p>事業手法の選定は給食の質の向上と安全性を考慮して行っていただければと思います。</p>	
22		<p>学校給食センターで運営・調理が重要なのは当然のことですが、設備のメンテナンスや非常時の対応を忘れてはいけません。P F I方式で県外大手主導の体制になれば、鳥取市ならではの緊急時での迅速なきめ細かい保守管理は不十分だと思います。</p> <p>「安心」「安全」な給食を「安定」して提供していくためには地元の各専門企業の尽力が不可欠だと思います。</p>	
23		<p>地元の食材を使った衛生的で温かい「地産地消」の全国に誇れる鳥取市の学校給食としていくためには、給食センターの整備も「地産地消」であるべきだと思います。従来方式での整備が望ましいと思います。</p>	

番号	該当箇所	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	意見等に対する市の考え方
24	その他	基本構想にあるように、安全安心な給食をこどもたちに提供する為に、老朽化した給食センターは是非建て替えるべきである。	<p>本施策の推進にあたり、引き続き第一・湖東学校給食センターのエリア（鳥取市北部エリア）に配食可能とする新たな学校給食センター整備計画（（仮称）第一期整備計画）を進めてまいります。</p> <p>いただきましたご意見は、外部の有識者を交えて、鳥取市学校給食センター整備計画検討委員会の中で、検討してまいります。</p>
25		基本的に新しい学校給食センターの整備に賛成です。 鳥取市外の町村の学校給食センターは近年次々と新しくなっており、特に老朽化が激しい北部地域の給食センターの整備は緊急性がある。	
26		老朽化が顕著な第一・湖東学校給食センターの北部エリアを、最初に建替える整備計画を早急を実施する必要があると考えます。	
27		P9の参考一学校給食衛生管理基準の補足、4)空調等を備えた構造でと書いてあるが、委託業者の調理員など健康被害がないように、空調設備が整っている給食センターにお願いしたい。	
28		中長期的な将来像として、提供食数が減少した部分の調理能力を、高齢化社会に対応する為、独居老人への弁当宅配サービス等も検討すべきと考えます。	
29		現状を踏まえ、また安全安心な学校給食とするうえで、鳥取市としてあるべき方向性に則り、また課題に対する対応がよく整理された基本計画だと思います。	
30		新センターでは災害発生時に炊き出しを行うとのことで近隣に居住している方々には心強い施設となります。	
31		高い保温・保冷性能をもった容器で各学校に提供されるのであれば、出来立ての温かい給食を食べることができる。ご飯の提供も同じような性能の容器で運ばれるのであれば、弁当箱より断然おいしいと思います。特に鳥取市はパンよりご飯の提供が多いのでとても良いことだと思います。	